

鮫島生の東行を送る
(横井小楠)

五尺の短身一竹 筇

千山万水 去つて 蹤無し

平生の心事 知る 何れの 処ぞ

寄せて 在り 芙蓉の 第一峰

五尺短身一竹筇 千山萬水去無蹤
平生心事知何處 寄在芙蓉第一峰

解説 鮫島雲城が第一回目の脱藩を敢行したとき、途次、熊本
の横井小楠を訪れた折りのもの。

語釈 ※鮫島生「生」字は目下の人につける。現在の君のよ
うなもの。※五尺短身「たかだか五尺の身に」という意。

※筇「つえ」。※千山万水「多くの山や川。旅程の遙か長いこと
を示す。※無蹤「行方が知れないこと。*平生「常日頃。

※心事「心に思うこと。※知何処「何処にあるのかわからない。
※寄「平生の心事を寄せる。※芙蓉第一峰「富士山の別称。

通釈 五尺のからだに竹筇一本を携えて、遙か遠くを目指して
旅を続けて行く。君の日頃の志がどこにあるのかは知らないけ
れど、きっと天下第一峰である、かの富士山に托してあるので
あろう。